



# 三春中学校だより

第 26 号

発行日 令和 元年 8 月 28 日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

## 【音楽は“出会い”！～かけがえのないものを心に、人生をよりよいものにしていこう。～】

タイトルの言葉は、8月21日（水）に行われた『第73回令和元年度田村地区中学校音楽祭』の講評でいただいたものです。審査員のお一人の安積高御館校の鈴木教頭先生の講評です。専門家でない私なので鈴木先生の講評を自分の言葉に代えてご紹介いたします。「みなさんのこれまでの練習の成果の発揮の場に立ち合わせていただきありがとうございます。合唱については、曲想・曲調に応じた演奏・表現に努め、演奏者自身はその曲から感じたものを、相手・客席まで伝わるように伝えてほしい。男声が混声を美しくした。これからも合唱を楽しんでほしい。」、吹奏楽に関しては、「自分の担当する楽器の音色や特質を確認して演奏につなげてほしい。そのためには自分の楽器の登場するよい演奏を聞く機会をぜひつくってほしい。その上で、演奏に際しては、曲に応じてこういう音色を出したいという意図を明確にもって演奏にあたってほしい。」、結びには、「音楽は出会いである。曲との出会い、仲間との出会い、それぞれが演奏を作り上げながら、その取り組みを通してかけがえのないものが自分の中に育っているはずである。それらによって、人生をよりよいものにしていただきたい。」というような講評をいただきました。

本校生徒の演奏は、日頃の練習の姿を見ていることもあって、何よりすばらしく聞こえました。一方で、都路中学校の自由曲『群青』という曲の「当たり前が幸せと知った」という歌詞が耳に残りました。パンフレットの作詞欄には、“南相馬市立小高中学校平成24年度卒業生”とありました。調べてみたら以下のような経緯が載っていました。

### 『群青』の誕生

南相馬市立小高中学校は東日本大震災で津波による甚大な被害をうけ、原子力事故により避難することとなった。全国に散り散りとなり原子力事故で小高に戻れないことなどさまざまな不安で歌を歌うことが難しくなっていたある日、授業を受けつつ小田先生が大きな日本地図に居場所確認のため生徒の顔写真を貼りつけていた中、生徒たちと小田先生による詩づくりが始まった。同級生などを思った思いを綴った日記や作文、他愛もないおしゃべりをつなぎあわせて、『群青』の大筋の歌詞ができあがり、この詩を小高中を象徴する言葉である『群青』と名づけ、小田先生が曲をつけた。小高中では毎年、卒業式の時に卒業生が希望や未来を語った歌を合唱することが慣例となっている。生徒たち自ら作詞したこの曲を練習するにつれ生徒たちも歌声を取り戻し、卒業式では『群青』を合唱することを成功した。以降、この曲は小高中の在校生たちに代々受け継がれている。

本校には、生徒と先生方による『讃歌』という歌詞と歌があります。大切に歌い、そして、歌い継いでいきたいと思います。運動部活動と共に、文化部の活動も、チームの大切さ、ひたむきさ、心の豊かさを育むためにすばらしい機会となっています。一人ひとりがお互いを大切に、一つ一つの活動に心を込めて、温かく豊かな心をもって生きていくこと、今回の音楽祭もとてもかけがえのないものを心の中に残してくれました。



## 【中学生も地域の一員として！ ～盆踊りの校外補導、ご協力ありがとうございました。～】

お盆の13日、14日、15・16日と、夏休みの校外補導後半の部が実施されました。13日（火）は要田地区、14日（水）は沢石地区、15日（木）・16日（金）は三春地区の盆踊りでした。

煌々と輝く月が出る中、自宅を出発して要田地区に向かうと、すでに盆踊り子どもの部は最高潮で、やぐらの上では本校の生徒たちが太鼓やお囃子を担当し、それに合わせて広場では踊りの輪ができていました。少し早く着いたため待ち合わせ場所で待っているとお母さんに声をかけられ一安心。その後集まってこられたみんなと一緒に周辺を一回りしました。翌日は沢石地区の“絆”盆踊り。沢石地区のやぐらの頭には大きな扇がのせられていました。子どもたちはおそろいの“絆”と背中に書かれ

た法被を身につけ、交替でやぐらの上で、まさに地域の一員として躍動していました。きれいな浴衣を身にまとった女子生徒に声をかけられ、うれしい気持ちいっぱいその後の花火大会を見学しました。15日(木)の三春盆踊りの1日目。役場前で待っていると着流しに編み笠をかぶったPTA会長さんも踊りの輪を抜けて補導に参加いただき、集まったみなさんと一緒に明徳門をくぐって三春小学校校庭の暗がりを補導、まほら駐車場から磐州通りに進みました。通りの両側に三春町の小学生がつくった灯籠が並んでいる中を進み、途中で左折して、やぐらがおかれたまほら前の交差点の通りへ。見上げると、お城山には“立体的な”お城が白く輝いていました。

お盆のさ中、各地区の校外補導にご協力をいただいた保護者のみなさん、先生方、ありがとうございました。各地区での子どもたちのがんばりをこの目で確認することができた楽しい3日間でした。各地区におかれましては、子どもたちの健全育成にご理解・ご協力をいただき、“共に”、補導活動にあられたこと、中学生を地域の一員としてご指導・ご支援いただいたことに重ねて心より感謝いたします。これからも三春中学校は地域と共にある学校をめざしてまいります。さらにこれからは、地域のみなさんにお世話になるだけではなく、地域のお祭りや行事への主体的参加、駅清掃などのように、地域や社会に貢献できる中学生をめざしてまいります。ぜひ、地域からのご要望等をお寄せいただければ、その参加の在り方についても検討してまいりたいと存じます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



**【命を守る！ ～もしもの時のために、救助袋を使ってみました。～】**

次週の夏休み明けを前に、8月23日(金)に、田村消防署三春分署、三春町役場、消防設備管理会社のみなさんにおいでいただき、救助袋や消火栓の使用法に関する研修会を行いました。3階の家庭科室・技術科室間のテラスに設置してある救助袋を校庭まで下ろすと竜が天に昇るような筒状の姿。そこを実際に3階から滑り降りました。その後、CGの室内消火栓を引き出しての操作法の研修も行いました。10月27日(日)に実施される町防災訓練にも参加予定です。いざというときのための日頃の備えを大切にいたします。

